目指す授業像（本学区では, 共通してどんな授業を目指すのか）	
視点１「学習意欲の持続」	視点２「児童生徒が主体となる学び合い」
学習課題を受け、解決のための見通しをもちながら、課題解決のために主体的に学び続ける児童生徒が見られる授業。	自分の考えをもち、学び合いによってその考えを広げたり深めたりしながら、より良い考えにたどり着こうとする児童生徒が見られる授業。
【現時点での課題（授業者・学習者）】 ・生徒が自分事としてとらえ、興味・関心を持って課題解決に取り組める課題づくりと設定の方法。（授） ・学習課題の解決に向けて必要な手順や方法を適切に選択しながら学習を進めることができるスキルの育成。（授）	【現時点での課題（授業者・学習者）】 ・自分の考えを持ち、理由・根拠を明確にして伝えられるスキルの育成と必要な環境の整備。（授） ・自分の考えや意見を、理由や根拠を明確にして表現できること。それによって、自分の視野を広げ、思考の深化に繋げられること。（学）

第２学年　社会科　単元指導計画

単元名　第３章　日本の諸地域　６節　東北地方 ー 伝統的な生活・文化を受けつぐ人々の暮らし ー （東京書籍　新しい社会　地理）	日　時	令和４年 11 月１日（火）５時間目
	対象学級	遠野東中学校　２年Ａ組（22 名）
	授業者	教　諭　　盛　合　晃　敬

１　単元の目標　（何ができるようになるか）

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕	「学びに向かう力, 人間性等」
●東北地方について、その地域的特色や地域の課題を理解できる。 ●⑤その他（生活・文化）を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象とそれに関連する他の事象やそこで生ずる課題を理解できる。（C (3)⑤）	●東北地方について、⑤その他（生活・文化）の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できる。（C (3)⑤）	●東北地方について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題や解決の方法について、主体的に追究している。（C (3)⑤）

２　単元で取り上げる「課題解決的な言語活動」　（何を通して育成するのか）

学習課題に対して自分の意見（考え）を明確に持ち、課題解決に向けた交流活動を通して、東北地方の生活・文化について、多面的・多角的に考察し、表現する。　（C (3)イ）

３　単元の評価規準　（何が身に付いたか）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　東北地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ②　⑤その他（生活・文化）を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象とそれに関連する他の事象やそこで生ずる課題を理解している。（C (3)ア）	東北地方について、⑤その他（生活・文化）の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。（C (3)イ）	東北地方について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題や解決の方法について、主体的に追究しようとしている。

４　「２つの視点」＋αによる授業改善　（どのように学ぶか）

視点１「学習意欲の持続」	視点２「児童生徒が主体となる学び合い」	本校の＋α「振り返り」
課題設定の場面において、興味・関心を高め、自分事としてとらえられるような課題を、既習事項や時事問題などの適切な資料や視点を用いて設定する。	交流活動の場面において、主体的に活動に取り組めるように、学習スタンダードを基準としたルールの徹底と役割分担を確認させる。また、自分の考えを持つ→交流→まとめる→発表のサイクルを定着させ、思考・判断・表現力と主体的に取り組む態度の向上を図る。	学習に対する自己評価と学習内容の振り返りに対する評価を適切に行い、次時への意欲付けを図る。

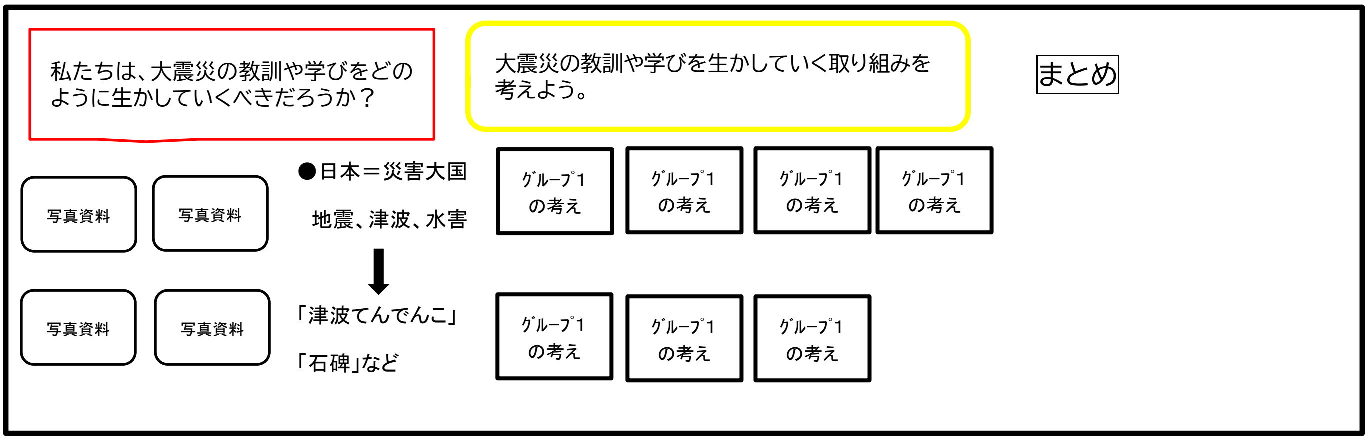
5　単元の指導と評価の計画（全５時間）　　（単元をどうデザインするか）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
1	【１　東北地方をながめて（P246～247）】 ・東北地方について、各種資料を概観し、必要な情報を読み取り、白地図作業や調べ学習を通して理解を深める。 ・東北地方では、なぜ伝統的な生活・文化を守り、継承する動きが見られるのかという探究課題について、既習事項をふまえ、予想する。（交流活動）	・各種資料や地図帳等の活用について、適切な支援を行う。 ・「保存」と「継承」という２つの視点に基づいて、学習活動が進められるようにする。	【知識・技能】 ・東西で大きく異なる気候や農業、人口分布などの特色を理解している。 【主体的態度】 ・探究課題の答えを予想し、見通しを持って主体的に追究しようとしている。 〔学習ｼｰﾄ・振り返り〕
2	【２　祭りや年中行事の伝統とその変化（P248～249）】 ・東北地方の伝統的な民俗行事に込められた願いやその特色について調べ、まとめる。 ・東北６県のそれぞれの祭りについて、その起源や現状等について調べ、交流する。	・タブレットを用いた調べ学習について、適切な支援を行う。 ・それぞれの祭りが、東日本大震災以降、「東北六魂祭」から「絆祭り」へと変化している意味と意義について、復興学習と関連付けてとらえさせる。	【知識・技能】 ・伝統的な民俗行事や込められた願いやその特色について理解している。 ・東北６県の祭りについて理解を深め、その地域的特色を理解している。 〔学習ｼｰﾄ・振り返り〕
3	【３　伝統工芸品の生産・販売とその変化（P250～251)】 ・東北地方の伝統産業や地場産業が自然環境とどのように結びついて生まれ、発展してきたか調べ、まとめる。 ・伝統的工芸品が世界市場や社会の変化と結び付いて変化・発展していることをふまえ、今後の更なる発展・継承のために必要なことについて考え、交流する。	・東北地方の伝統産業や地場産業と自然環境の関連について、それぞれの特色を理解させる。 ・東北地方の伝統産業に関わる人々が発展・継承のために努力を続けている背景の多様性に気付かせる。	【知識・技能】 ・東北地方の伝統産業や地場産業が発展した理由について、自然環境と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ・東北地方の伝統産業を更に発展・継承させていくための方法を時代や社会の動きと関連付けて考察し、表現している。 〔発言・学習ｼｰﾄ・振り返り〕
4 本 時	【４　過去の継承と未来に向けた社会づくり（P252～253）】 ・災害が多い東北地方の人々が残してきた教訓について、これまでの復興学習で学んだことと関連付けながら理解を深める。 ・東日本大震災の教訓や学びをどのように生かしていくべきか考え、話し合う。	・これまで学んできた学習内容を十分に想起し、課題追究に繋げられるよう支援する。 ・課題追究に向けて、活発な交流活動となるよう、必要に応じて支援する。	【知識・技能】 ・東北地方の過去の災害の教訓がどのように活かされているか、復興学習で学んだ事項をふまえながら、理解している。 【思考・判断・表現】 ・東日本大震災の教訓をどのように継承していくか、また、今後どのような取り組みが必要かについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 〔発言・学習ｼｰﾄ・振り返り〕
5	【基礎・基本のまとめ　まとめの活動（P254～253)】 ・基礎的事項の単元テストを行う。 ・これまでの学習活動をふまえ、東北地方の生活・文化を守り、活性化させていくためのプランを話し合う。	・本節の学習内容をふまえたうえで、自由な発想でまとめられるよう支援する。	【知識・技能】 ・東北地方の基礎的事項について、理解している。 【思考・判断・表現】 ・既習事項を生かし、東北地方の更なる発展のために必要なことについて考察し、表現している。 〔学習シート・振り返り〕

６　本時の展開　（本時をどうデザインするか）

	学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点
導入 ５分	１　これまでの復興学習を想起する。 ２　本時の学習課題を設定する。	いわての復興教育：そなえる⑰ **【視点１：学習意欲の持続①】** **・これまでの復興学習等の内容を想起しながら、興味・関心を持たせ、本時の学習課題につなげる。**
	【学習課題】　私たちは、大震災の教訓や学びをどのように生かしていくべきだろうか。	
展開 40分	３　被災の経験・教訓を伝えているものについて確認する。	・「石碑」と「てんでんこ」の資料を用いて、その意味と意義について触れ、教訓と学びに対する意識を高める。 ・東日本大震災は、これらの教訓が生かされなかった面があることをおさえ、学習テーマの意識付けとする。
	【交流テーマ】　大震災の教訓や学びを生かしていく取り組みを考えよう。	
	４　自分の考えを持つ。 ●大震災の教訓や学びを生かすための取り組みを考える。	・十分な時間を確保し、しっかりと考えを持たせる。
	５　交流活動①（グループ） （１）　グループ内で意見交流する。 （２）　意見をまとめる。	**【視点２：児童生徒が主体となる学び合い①】** **・各自がまとめた内容を交流し、更なる課題追究を図る。** ・十分な時間を確保する。
	６　交流活動②（全体） ●グループごとに発表する。	**【視点２：児童生徒が主体となる学び合い②】** **・各グループの発表を聞き、考えを深める。** 【思・判・表】　【主・態】 ・仲間の意見を聞き、多面的・多角的な視野から考えを深めている。 ・主体的に取り組んでいるかどうか。 （観察・発言・記述）
	７　まとめ	・学習課題に対応する形であることをおさえる。
	【学習内容を基に、後世に伝えていくための手立てや防災に対する意識が見られる】 ・「震災を風化させないこと」 ・「語り継ぐこと」 ・「各地で起きている災害や自分達の地域の防災に関心を持つこと」	
終末 ５分	８　本時の振り返り	**【本校の＋α振り返り】** ・振り返りシートに記入する。
	・震災の経験をどのように伝えていくべきか、そのために何をすべきか考えることができた。 ・仲間の意見を聞いて、できることやれることがまだまだあると思った。 ・今後も震災は起こると思うので、学んだことを忘れずに備えていきたい。	

7　板書計画等　（学びの可視化をどうデザインするか）



C A　目指す授業像（本学区では，共通してどんな授業を目指すのか）

視点１「学習意欲の持続」	視点２「児童生徒が主体となる学び合い」
学習課題を受け、解決のための見通しをもちながら、課題解決のために主体的に学び続ける児童生徒が見られる授業。	自分の考えをもち、学び合いによってその考えを広げたり深めたりしながら、より良い考えにたどり着こうとする児童生徒が見られる授業。
【協議や助言の内容】 ○これまでの学習内容をふまえた導入だった。 ○総合学習と絡めた導入がスムーズだった。 ○課題設定から役割分担までのルーティンが確立されていて、課題意識が最後まで持続されていた。 ○課題を「自分事」として、捉えることができていた。 ○「今の中学生に何ができるか」という視点で生徒が主体的に考えており、「体験していない生徒が学び、それをまた伝える」という復興学習にも大きく関わるものだった。 ●課題設定までに、生徒とのやりとりをもう少し増やすことで、課題に対する意識がより高まったのではないか。	【協議や助言の内容】 ○生徒の役割分担がスムーズで、機能的だった。 ○グループ内交流の「メモ書き」の活動のレベルが高く、うなずいたり、同調したりしながらの交流が素晴らしかった。 ○全体交流で、ホワイトボードで要点を示し、発表者がきちんと理由を補足し、説明していた。 ○学び合いの質が高い。 ○授業の中における様々な活動に対する切り替えが素晴らしい。（学ぶべき時に学べる、発表者の安心感） ○どの生徒も、根拠を基に発表できていた。 ○まとめで出た「被災者の思いを感じ・・・」の発表は、これまでの学習の成果が十分に表れていた。 ●発表内容について、交流の方法を工夫すれば、もっと多くの視点が出たのではないか。 ●自分の考えを持つ時間を、延長せずに短く切り、交流活動で掘り下げさせることで、更に深まりが出るのではないか。（練り合いの仕掛け）
【本単元を終えての成果（授業者・学習者）】 学習意欲の持続という点では、総合的な学習の時間や復興研修の学びの内容も絡めた横断的な学習内容であったので、十分な予備知識を持って学習に取り組めたのではないかと思う。また、学習スタンダードを意識した取り組みを積み重ねてきた成果が学習意欲に大きく結び付いているのは明らかなので、今後もこの視点は大事にしていきたい。	【本単元を終えての成果（授業者・学習者）】 交流活動では、これまで道徳等の時間も含めて積み重ねてきた成果が出ていたと思う。特にも「まとめる力」と「表現力」は大きく向上しているように思う。今後、交流活動での更なる深まりをどのように生み出すかの仕掛けや工夫が必要であると考えるので、教材研究等に更に努めていきたい。
【授業者所感・今後の実践に向けて】 今回の授業交流会の取り組みは、自分が積み重ねてきた実践を振り返る大きな機会となった。「課題設定」、「交流活動」、「振り返り」の３つの視点を大切にした取り組みは、今後も実践の柱として継続・向上させていきたい。研究会でいただいたご意見・ご助言を生かしながら、今後も指導力向上に向けて、努力していきたい。	